



番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
7-C1	道路から見える高山らしい景観を向上させるため、道路整備と一体的に景観に配慮された塀等の設置を奨励し、誰もがすみよきを実感できるまちづくりに寄与する。	
7-C2	道路から見える高山らしい景観を向上させるため、道路整備と一体的に公衆用道路に面した部分への生け垣の設置を奨励し、誰もがすみよきを実感できるまちづくりに寄与する。	
7-C4	道路から見える高山らしい景観を向上させるため、道路整備と一体的に景観に配慮された看板の設置を奨励し、誰もがすみよきを実感できるまちづくりに寄与する。	
7-C5	A34と一体的に、近接する伝統的建造物群保存地区の無電柱化を促進することにより、多くの交流人口によるにぎわいのあるまちづくりに寄与する。	
7-C6	A23からA47の内、橋梁耐震事業と一体的に河川災害防除のため旧橋を撤去することにより、安全安心なまちづくりに寄与する。	
7-C7	A18、A56により高山駅東西の動線が新たに生まれることにより、合わせて駅周辺の駐車場を整備し、多くの交流人口や活発な産業活動によるにぎわいのあるまちづくりに寄与する。	
7-C8	A36、A40、A45の道路整備（消雪対策に側溝修繕）と一体的に、郊外の道路においては、特に冬期凍結する箇所へ凍雪用自動撒布機を設置することにより、凍結防止による交通事故の低減を図り、安全安心なまちづくりに寄与する。	
7-C9	A16やA34の道路整備と一体的に、案内での休憩スペースを整備・設置することにより、人口交流によるにぎわいのあるまちづくりに寄与する。	
7-C11	A18により高山駅舎を橋上化改築する際に、合わせて市の玄関口としてふさわしい外観となるよう修景整備を行うことにより、多くの交流人口や活発な産業活動によるにぎわいのあるまちづくりに寄与する。	
7-C12	橋梁の長寿命化を図り、道路網全体の安全性を向上させる。	
7-C13	地方道路整備事業（7-A34）と一体的に市民や観光客（歩行者）が屋外で憩える場所を整備することにより、道路から見える高山らしい景観の向上と誰もがすみよきを実感できるまちづくりに寄与する。	
7-C14	地方道路整備事業の整備とあわせて、市民や観光客（道路利用者）の道しるべとなる案内看板の整備を行うことにより、誰もが安全・安心・快適に道路を利用することができるようになる。	
7-C15	地方道路整備事業の整備とあわせて、夜間通行に危険性のある道路に防犯灯を設置することにより、道路の安全性が確保され、誰もが安全・安心・快適に道路を利用することができるようになる。	
7-C18	被災のおそれのある道路ストック（法面・盛土等）の点検を実施し、その点検結果を踏まえた修繕事業をA27で実施することにより、災害による被害防止が図られる。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況				
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路拡幅整備により、信号待ち等による渋滞の緩和が図られた。</li> <li>・バリアフリー整備や側溝修繕により、有効幅員の確保が図られ、道路利用者が安全・安心・快適に道路を利用することができるようになった。</li> <li>・橋梁の耐震補強の促進により大規模災害発生時の避難ルートや緊急輸送道路の確保を図ることができた。</li> <li>・防犯灯の設置や、歩行者のためのカラー舗装等を整備することにより安全性が向上し、誰もが安全・安心・快適に道路を利用することができるようになった。</li> </ul>			
	II 定量的指標の達成状況	指標① 市民にアンケート調査を行い、道路に関する満足度を調査する	最終目標値 40.00%	最終実績値 55.30%
	指標② 年間交流人口（観光客入込数）を調査する	最終目標値 5,000千人	最終実績値 4,025千人	目標値と実績値に差が出た要因 観光客入込数は、目標値に達することができなかったが、リーマンショックや東日本大震災の影響など想定外の要因により一旦落ち込んだものの、トップセールスや昇龍道プロジェクトの活用等により外国人観光客の増加がみられ約4,000千人まで増加した。目標を達成できなかった要因としては、市の第8次総合計画の目標では平成36年に5,000千人とすることを掲げており、もともとの目標値を高く設定したことが要因と考えられる。
	指標③ バリアフリー整備完了道路延長を調査する	最終目標値 14.8 km	最終実績値 15.1 km	目標値と実績値に差が出た要因 当該交付金を活用しながら、バリアフリー整備を進めることができ、目標を上回る結果となった。市民アンケートでも満足度が目標値を上回っており、その成果が現れている。
	指標④ 橋梁の耐震化整備箇所数を調査する	最終目標値 34.10%	最終実績値 38.80%	目標値と実績値に差が出た要因 当該交付金を活用しながら、橋梁の耐震化整備を進めた結果、目標を上回った。
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				
3. 特記事項（今後の方針等）				